

元気な地域づくり 活動報告会

平成21年12月17日（木）13:30～16:30

横浜市健康福祉総合センター 4階ホール

事例発表

地区 都筑区 かちだ地区

テーマ 「誰もが安心して暮らすために ～今、団地ができること～」

発表者 中山 敏明 さん（かちだ連合自治会副会長）

中山 誰もが安心して暮らすために、今、勝田団地でできることの活動報告を元気いっばいさせていただきますので、どうかよろしくお願いたします。私は横浜の北部、都筑区から参りました中山です。

都筑区は平成6年に誕生し、本年15周年を迎えることができました。ららぽーと、ノースポートなど大規模百貨店が進出している活気のある、元気のある、にぎわいのある町です。農地もたくさんあり、都筑野菜の都市農業が盛んで、市営地下鉄グリーンライン、ブルーラインが走る地域です。横浜18区の中で一番若い区、平均年齢37.8歳。

私どものふるさと勝田団地ができて43年が経ちました。現在、勝田団地には1,220世帯、2,315人が住んでおります。その中で65歳以上の高齢者が10人に4人、約40パーセント、超高齢化率。また、65歳以上の一人暮らしの方が約3割です。少子高齢社会が現然と、現実のものとなっています。

勝田団地の自治会組織の大きな特徴は、1号棟から41号棟まで、1階から5階まで154の階段に10軒ずつ住んでいます。先ほど御講演を頂きました名和田先生が「向こう3軒両隣」とおっしゃいましたけれども、私どもは「向こう10軒両隣」でございます。その154階段には、地域の見守りの要として、各階段に階段委員が154名いることとなります。

数年前から、私どもの勝田団地全体の中で、ポストに新聞がたまっている、回覧板がそのまま、収集日なのにゴミを出していない、玄関チャイムを鳴らしても応答がない、集会場での集まりにも参加していない、ということで、なんと悲しいことに、死後発見された方が一昨年、19年度は4名の方々がおります。なんと悲しい出来事で、また、私自身悔しい思いをいたしました。何のための地域か、これが勝田団地か。みんなの意識が芽生えてきて、孤立死を防止するために、地域で孤立しない、また、させない。孤立防止に取り組むことになっていくわけです。そして人と人とがつながりを持った温かいコミュニティづくりに、自分が「暮らしてよかった」と言える団地にしたいと思いました。

「みんなでやってみよう」ということで、14団体を中心に、平成20年6月30日に「おもいやりネットワーク連絡会」を立ち上げることになりました。行政の応援を得てパートナ

ーシップを築くことが出来ました。

その日から月1回の事務局会議で具体的な検討課題が出てきました。毎回毎回、孤立させない地域づくりをするにはどうしたらいいのか、みんなで話し合いが続きました。地域としての役割は何だろうかということで、6つの大きな課題が出てきました。

- 1 番目、一人暮らしの高齢者が部屋で倒れたらどうしよう。
 - 2 番目、困ったときにどこに相談すればいいかわからない。
 - 3 番目、夜になっても電灯がつかない。昼間もカーテンが閉まったままで電灯がついている。
 - 4 番目、自宅で閉じこもりがちな人が多い。
 - 5 番目、気軽にしゃべりできる場所があればいいな。
 - 6 番目、ちょっとしたお手伝いをしてほしい。
- という要望が出てまいりました。

課題1番のために、私どもは一人暮らしの高齢者が部屋で倒れたらどうしよう。緊急連絡先カードを作り、各自治会長が責任を持って管理することになりました。これが皆さんのお手元にあると思いますけれども、緊急連絡先カードです。本人、家族、緊急連絡先、ケアマネですね。

このカードにつきましては、先ほどお話ししました地域の要としての階段委員さんをお願いし、一人ひとりに会い、そして手渡しで趣旨を説明し、配布・記入し、封印をして回収をいたしました。このことを通して、私どもは階段委員さんの役目として、地域の信頼がなければ、関係がなければこれは実行できなかったと今思います。その結果、カードを配った対象は70歳以上の高齢者ですが、カードの回収率が95パーセント以上になっております。情報はもちろん、各棟ごとにノリ付け・封印をして、しっかりと管理することになりました。また、これは秘密の場所で、会長・副会長のみが知る場所、非常持出袋となっております。実際にこのカードを使って連絡し、無事連絡がつながった例がたくさん出てまいりました。3日、4日姿が見えない、部屋にはいない心配だ。先ほどの寸劇ではタケウチさんは皆のチームワークで助かりましたけれども、そういうことでこのカードを使い連絡すると、なんと、かぜをひいて病院に行ってもそのまま娘さんここに滞在していたということでほっとした例があります。

課題の2番目、困ったときにどこに相談すればいいかわからない。安心カードの配布をいたしました。裏表になっております。裏側には覚書として、救急車の呼び方、110番のかけ方、掛かりつけ医者、新栄地域ケアプラザの電話番号、それから民生委員さん、自治会長さん、そして団地に関する指定業者の連絡先、全戸配布をいたしました。ヒモを付けて、厚手のファイルを用意し、配りました。

で、もらった方は冷蔵庫の横にはったり、玄関先に電話のそばに置いたり、いつでも緊急時すぐ分かる場所に、どこの家庭でも今あります。

課題の3番目として、夜になっても数日電気がついていない、いつもなら電気がついていない時間についてない。これは何か危険なサインである、ということで、ライト運動を開始しました。友愛活動推進員の方が毎晩、午後8時に集まってまいります。「お疲れ様」、あれは老人会のフナツ会長さんですね、「どこから回るの」、1軒1軒回って、「今日はどう

したんだろう。電気がついてないね」「あら、まだ洗濯物が干しっ放した。明日の朝一番で声をかけてみよう」という運動を毎月3回やっております。

課題の4番目、自宅で閉じこもりがちな人が多いということで、体操教室を開催しました。太極拳の先生がボランティアでやってくださり、介護予防としての体操で参加者も非常に多いです。今年の盆踊り大会では、実際に実技を指導し、PRをしていただきました。

今年度は課題5番目に取り組みました。約半年取り組みました。自宅で閉じこもりがちな人が多い。部屋で一人で食事をし、会話はテレビのみ。近所にお話しをする人がいない。だれか愚痴を聴いてくれる人いないかな。みんなが気軽におしゃべりできる居場所をつくってもらいたい、ということで、サロンの開設を準備してきました。「サロンひだまり」でございます。

もちろんその間、体制も色々考えて、ネットワークの一員である区社協の御協力を得て、ボランティア養成講座を受けました。初めはみんな不安で「私はボランティアなんかできないわ」という人が多かったのですけれども、このトランプゲームをやってから、が然と自信が付いたそうです。

そしていよいよ待ちに待った開所式を、今年21年9月30日に迎えることができました。集会所のその当時の模様です。全部ボランティアが看板とかのれんとか模造紙に書いてくださったり、出迎えのサロンののれんを作っていただきました。これが「笑顔いっぱい」あまり若くないと思いますけれども、もう本当にニコニコしてます。おそろいのエプロンも素晴らしいです。

で、当日は70名の方が参加してくださいました。4つの各自治会からはお赤飯、吸物、漬物のプレゼントがありました。

そして老人会からは4曲の歌を披露していただきました。あっ、うちのお母さんが一番前で元気そうにしています。いつも元気いっぱいのお母さんです。老老介護、認認介護が今、流行ってます。私は日ごろ、私がボケるかお母さんがボケるか、ボケの少ないほうが面倒見るといふ約束をしています。私はピンピンコロリということで、誰にも迷惑かけない。ふだんピンピンで、最期はコロリと逝くように話をしております。

当日は今後の参考のために、参加者へのアンケートを取り、終わった後に反省会も熱く熱くもうけました。

現在の状況です。サロンひだまりの利用状況は、多いときは20人から30人来ております。車いすで参加される方もおります。また、このサロンに出席して40年ぶりにトランプをして楽しかった、オセロゲームが面白かった、という人もいます。手話や横文字を教えてくれるボランティアまで出てまいりました。そしてDVDは1,000本近くあります。昔懐かしい『君の名は』、嵐寛寿郎等々のDVDが1,000本近くボランティアの方から寄贈されました。

時間の関係上、課題の6番、飛ばそうかと思ったんですが、今、進行中なんです、これ。実は先日ですね、ある方が御自宅で蛍光灯を取り換えようとしてた。本人は若いつもりだったんだけど、電気の傘を取りはずしたとたんに同時に落っこって骨折、アキレス腱を切ったという高齢の方がいました。そういうことで、ちょいボラの活動も今、ボランティア養成講座で更に更にボランティアの人を増やすため、登録者を募集中です。また、この

課題6を継続拡大するため、今後も更に元気いっぱい、さりげなく見守りを続けることが今年の課題となっております。

団地内で見守りの輪を広げるためにという趣旨で、地域の集いも開催いたしました。この中で孤立死について考えました。年2回の、皆様のお手元にあると思いますけれども、おもいやりネットワーク通信を、機関誌も発行しております。これは全所帯配布でございます。

そして先ほどお話ししました154名の階段委員の集まりは毎月4日間に分けて各自治会ごとに行っております。その中で、認知症サポーターとして150名近くの方がオレンジリングを付けてやっております。

思いやりの中で再確認していることは、階段委員さんの心得の4か条を皆で確認し合っております。本日の冊子の中にまとめてあります。

これ、神奈川新聞の記事です。このおもいやりネットワーク活動を通して、勝田団地住民一人ひとりが孤立死防止への関心が高まった、意識が変わったというのを、私自身も感じております。まず自分ができることから始めようということでスタートしています。皆さんのお手元にある素晴らしい、改訂版の「かちだ地区おもいやりネットワーク」の中に出ておりますので、お家に帰られたらお読みになっていただきたいと思います。

今後の課題は、また後でディスカッションの中でやりたいと思います。いずれにしましても、あいさつが一番大事だということでございます。あいさつはその人の心を開く鍵と言われております。私はもうあいさつが大好きです。1日平均14、5人に声をかけます。中には知らない人がいて、向こうの人もきょとんとします。私もきょとんと、「どちら様でしたか」、お互い知らない者同士ですから、そういうあいさつもしてます。

カラスにも声をかけます。収集場所に來たら「カラスさん、ここ汚さないでね」「分かりました。カーカー」って、あいさつにこたえてくださいました。

約2年間この取組をした最初から、区役所を代表して田邊係長さんには感謝の意を述べたいと思います。

それから1年半経ち、なんと勝田団地では孤立死が今日現在、ゼロなんです。こんなにうれしいことはありません。だから、自信を持って今日は壇上に立たせていただきました。今後も地域の住民との信頼関係を更に強く、「勝田団地に住んでよかった」「元気で長生きしてよかった」と言える人々とともに頑張りたいと思います。

皆様、御清聴大変ありがとうございました。